

## (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

併願大学を探していたときに同志社女子大学のホームページを見て、とてもきれいな校舎と興味の湧くコース、授業があったこと、先輩方がとても楽しそうだったこと、また、併願可能で年内に合格発表される入試形式が良いと思ったので受験校に決めました。

## (2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

## 〔1学期〕

まだ受験校として考えていなかったため、他大学の一般入試に向けて基礎力をつけるために英文法や、英単語、古文単語などの勉強をしていました。朝学校へ行くときや、放課後に予備校へ行くときは古文単語、予備校から家へ帰るときは英単語など自分で決めてなるべく単語などはすきま時間でやるようにして受験が終わるまで続けていました。

## 〔夏休み〕

この頃も受験校として考えていませんでした。第一志望校の指定校推薦枠を狙っていたので、定期テストに向けた勉強に重きを置いていました。学校や予備校で受ける夏期講習は必ず予習していき、予習の時点でわからなかったところをすべてチェックして講習後にチェックしたところがすべて解決するように先生に質問しに行っていました。先生に質問するときには自分がどのように考えてこの解答にしたかを明確にし、なぜ間違えたのかを聞くようにしていました。

## 〔2学期～入試直前〕

第一志望校と同志社女子大学だけを受験すると決めたのでこの頃から赤本を解き始めました。最初から時間を計って解きました。また、学校の先生に自分の成績を教えるもらい合格最低点の5%以上の得点を取ることを自分の中の基準にして勉強しました。赤本1冊に収録されている問題の数が少なかったため、一般入試で似ている問題を探して解いていました。文学史は自分でふせんで色分けしてノートを作って寝る前に確認したり、英文法で間違えたところはスラングレなど確認したあと、類題を次の日、3日後、1週間後と間隔をあけて解き、頭に定着するようにしていました。英語長文は文型を意識して読めば多少意味がわからなくても答えが選べる問題が多いのでそれを意識して読むようにしていました。

## (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

5月末まで部活があり、放課後に十分な勉強時間を取れないことがありましたが、土日は練習が午後からのことが多かったため、9時までには学校へ行き部活の時間まで勉強すると決めていました。スマートフォンはInstagramを一度開くとなかなかやめられなかったためアカウントごと消してSNSはLINEだけにしました。YouTubeは自分の好きなYouTubeチャンネルの動画だけを見ることにして、1日に1本、多くて2本まで決めて見ていました。初めはインスタ見たいた、とか、もっとYouTube見たいた、と思いますが意外とすぐに慣れ、スマートフォンとうまく付き合うことができてきました。

## (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

一生懸命勉強することも大切ですが、息抜きもすごく大切です。息抜きにスマートフォンを見たり、寝たり、音楽を聴くのも良いですが、私は友達と話すのがとても良い息抜きになっていました。お昼ご飯を食べるときや、予備校や学校帰りになにかもないようなくだらない話をしたり、勉強のことなど真剣な話で互いを高め合えるような友達を見つけて辛いだけの受験期にならないように頑張ってください。